

「3・11 富山集会」実行委員会さま

福島原発災害が起きてから6周年の3月11日、福井市フェニックスプラザで「第6回さよなら原発福井県集会 2017 in ふくい」が開催されます。

福井県若狭湾沿岸には15基の原発がありますが、そのうち、新型転換炉「ふげん」、高速増殖原型炉「もんじゅ」、美浜1号機と2号機、敦賀1号機の廃炉が決まっています。これらの廃炉決定は、決して政府の英断によるものではなく、私たちの運動の勝利の結果であり誇りと言えるものです。残りの10基も老朽化しています。私たちは、若狭湾沿岸で第2の福島原発災害を起こさせないために、全ての原発を廃炉とするように住民運動を強化しています。

国も福井県も、若狭原発が重大事故を起こした場合の避難・防災に対して実効性のある対策を全く示すことができていません。重大事故発生の場合には、福井だけでなく富山のみなさまも被災されてしまいます。

私たちは、単に国の原発推進政策を批判してきたのではありません。私たちは、使用済み燃料の処理処分や廃炉の問題についても、子孫に負の遺産を残さないため、積極的に具体的な提案をしていく用意があります。今や、原発立地の福井県でも、省エネ普及と自然エネルギー利用への転換に取り組む自主自律・地産地消型の住民組織が芽生え増えつつあります。これには、明るい希望があります。

防災・避難に対し無策であり、使用済み燃料の処理処分や廃炉の技術が完成する見通しの立たないなかで、原発を再稼働しようとする反知性的な安倍晋三政権を許すわけにはいきません。

原発のない社会をつくるためにともに頑張りましょう。

2017年3月11日

「第6回さよなら原発福井県集会 2017 in ふくい ～

原発のない新しい福井へ

3・11メモリアルアクション」実行委員会